



## はんだ くぼた みず 吐田、窪田は、水つきどころ

### あぶら じぞう 油かけ地藏に守られて

川西町吐田の田んぼの中に、「油かけ地藏」があります。油は水をはじくので、人々は油をかけて、洪水にならないようにおまつりしています

### 吐田の油かけ地藏

1400年ほど昔、聖徳太子がこのあたりの洪水のようすを悲しみ、油かけ地藏をまつるよう教えたといわれています。

### 水つきどころ

奈良盆地の中央、安堵町窪田と川西町吐田地域は、寺川や富雄川など、大和川の支流が集まる、奈良盆地でも一番低い土地です。



あふれる岡崎川 1995年7月水害

昔の大和川は、川はばがせまく大きく曲がっていて、大雨がふると、堤防が切れて洪水になることがよくありました。堤防が切れなくても、雨がふり続けると大和川の水位が上がり、田畑の間を流れる岡崎川などに大和川の水が逆流してあふれることがありました。また逆流を防ぐ水門がしまると、岡崎川の水の行き場がなくなって、あふれてたまるのです。

そうになると、20日も水が引かないこともあり、田畑の作物

が全部くさってしまうことがありました。

※水つき・・・川の水があふれて田畑や家が水につかること。洪水のこと。

## 大和川改修

洪水になやまされていた川ぞいの集落<sup>しゅうらく</sup>では、それぞれの区長<sup>くちょう</sup>が集まり、何度も話し合い、国に願いを出しました。そこで、



大和川の改修工事は 1959

大和川の改修工事をする前の地図 1955年

年から 1964 年にかけて、国の仕事として進められました。大和川の川はばを広げてまっすぐにし、まわりの田畑の用水路の整備<sup>せいび</sup>や、大和川にそそぐ小さい川の水門<sup>すいもん</sup>の工事も行われました。



改修工事のあとの空からの写真(1985年)

工事のおかげで堤防<sup>じょうぼう</sup>が丈夫になり、水門がしまって岡崎川の水があふれて洪水になっても、1日もすれば水が引き、作物への心配もなくなりました。

しかし、新しい川すじにあたる中窪田集落<sup>なかくぼたしゅうらく</sup>の 24 けんの人々が、住みなれた家をはなれなければなりませんでした。